

「也力継続」

校長 大島 進

風が、爽やかな新緑の空気を運んでくれる季節となりました。吹上中学校の学校だよりは「緑風」ですが、まさにこの季節のような風なのではないかと思いました。

また、朝、校門に立っていると爽やかな挨拶のできる生徒が多く、感心させられます。爽やかさを感じるのは季節だけではなくこのような何気ない挨拶にもあるものだと吹上中学校の生徒が改めて教えてくれます。

さて、4月はクラスが新しくなり、特に1年生は入学という大きく環境が変化し部活動など慣れないことが多く、毎日の学校生活に多くのエネルギーを使った人も多かったかもしれません。そして、昨年度よりもレベルを上げて毎日過ごしていた人はなおさらのことでしょう。



飛行機に例えるならば、離陸し高度を徐々に上げていた時期がこの3週間だったのでないでしょうか。しかし、このあとは徐々に慣れてきて、少しずつ自分のペースをつかめば学校生活も過ごしやすくなっていくことがあります。5月には体育祭という大きな行事もあり、3年生は修学旅行も控えています。忙しい中にも充実した5月が始まりますが、生徒の皆さんにはリズムやペースをつかむ5月にしてほしいと思います。それと同時に、4月の様々な取組(努力)を定着させるのがこの5月です。この5月で新たな取組を定着させ、さらに6月7月と歩みが進めば、続けて努力してきたことに対する少しずつ結果が出てくることが増えてきます。

ところで、校長室には、この78年間(今年で79年目)の重みを感じるものがたくさん飾られていますが、その中でもひときわ存在感を示すものが「也力継続」(書き方が右から左となっています)の文字が見事な書体で書かれた一番大きな額です。よく見ると脇には創立50周年記念と書かれ当時の町長の名前も記されています。私が教員時代には、旧鴻巣市や北本市の学校に勤務をしていましたので当時の吹上中学校の様子は疎いのですが、町をあげて各学校を支えてくださっていたことが想像できます。そして、吹上中学校が、継続することの大切さを長年大事にしてきたことを感じさせてくれます。今後も続けていくことの大切さを生徒には伝えていきたいと思います。

吹上中学校の生徒の様子を見ていると長年受け継がれ、続いている伝統を感じます。例えば、先日3年生がソーランの練習をしていました。体育館で練習をしていた3年生の声がとても大きく気合いが入っていました。校長室まで聞こえてきたその声につられて、体育館にいくと一生懸命に演技の練習をしている姿がありました。女子が演技をしているときには男子が大きな声を出して協力していました。迫力のある気持ちのこもった演技は伝統として続いてきたものなのだろうと思いました。

吹上中学校は生徒が登下校する門が複数あります。各門を順番に、曜日ごとに、挨拶に立ちたいと思います。まずは私も1年間継続していきます。